

立命館経済学 第二十一卷総目次(昭和四十七年度)

論 説

号 頁

「均衡蓄積軌道」について……………甲賀光秀 一(一)——三六(三六)

経営者のあり方(一)……………足立政男 二(一三五)——三四(四八)

——老舗の家訓・店則から見た——

現代貨幣資本の検討……………小牧聖徳 二(二五(四九))——五(八〇)

——国家独占資本主義の貨幣資本供給——

失業意識調査と最近の就業希望者の特徴……………関 弥三郎 三(四)——三(二七五)

戦時貨幣統制に関する研究(その二)……………三好正巳 三(四)——三(二七六)——九(三三六)

——国家独占資本主義貨幣統制の内容——

経営者の在り方(二)……………足立政男 五……………一(四四)——四(四八)

——老舗の家訓・店則から見た——

北九州における工業立地と土地利用問題……………杉野 園明 六……………一(五六)——一五(七七)

研 究

ウィリアム・ペティの経済理論(下の一)……………稲村 勲 一……………二七(二七)——七〇(七〇)

——市民革命経済理論の形成——

立命館経済学(第二十一卷・第六号)

一一三三(八〇三)

正規母集団であることの検定について……………	山田 弥	二	五〇(一八)	—	六(一九)
ウィリアム・ペティの経済理論(完)……………	稲村 勲	六	一四(七四)	—	二七(九七)
——市民革命経済理論の形成——					

研究ノート

『資本論』における産業資本の直接的生産過程論……………	坂本 和一	三・四	九三(三七)	—	一四五(六九)
——『資本論』第一部、第二、三、四篇の「解釈」——					

計量経済学批判における若干の問題点……………	山田 弥	五	四二(四八)	—	五九(九九)
------------------------	------	---	--------	---	--------

資料

社会主義のもとでの「使用価値と価値」(三)……………	芦田 文夫	一	七(七)	—	九五(九五)
日本資本主義確立期の「会社」および「役員名簿」(一)……………	後藤 靖	五	六〇(五〇)	—	二三(五三)

翻訳

ア・ゲ・グランベルグ「社会厚生目的関数と 实用国民経済モデルにおける最適性基準」(上)……………	小野 一郎	二	六九(九三)	—	九七(三三)
西ドイツ経済の軍事化……………	振津 純雄	三・四	一四六(三九)	—	一四四(四六)

書評

狭田喜義『職能給の理論と方法』……………	三好正巳	一	九六(九六)	—	一四四(四四)
----------------------	------	---	--------	---	---------

共同研究室

昭和四七年度第一回研究会「恐慌論について」	甲賀光秀	二	九六(三三)——九六(三三)
昭和四七年度第二回研究会「国家独占資本主義研究の新しい動向によせて」	戸木田嘉久	二	九六(三三)——二四(三八)
昭和四七年度第三回研究会「訪米 (Harvard 大学を中心とする) の問題意識」	浜崎正規	二	二四(三八)——二四(三八)
昭和四七年度第四回研究会「マルクス価値論の成立過程」	岡崎栄松	三	四——九五(四三九)——九五(四三九)
昭和四七年度第五回研究会「ドイツ産業資本成立過程の研究をめぐって」	川本和良	三	四——九五(四三九)——一九六(四四〇)
昭和四七年度第六回研究会「社会主義的所有論と『民主主義』」	芦田文夫	三	四——一九六(四四〇)——一九六(四四〇)
昭和四七年度第七回研究会「ヨーロッパ共同体の農業政策」	清水貞俊	五	——二四(五六四)——二五(五六五)
昭和四七年度第八回研究会「『諸形態』と本源的経営様式論」	田坂敏雄	五	——二五(五六五)——二五(五六五)
「資本蓄積の一環としての恐慌」	山本幹夫	五	——二六(五六六)——二六(五六六)

昭和四七年度第九回研究会「貧困化論研究の一視点」……………伍 賀 一 道 五……………二六(五六)——二六(五六)

「規模別賃金格差論の理論的考察」……………横 山 政 敏 五……………二六(五六)——三〇(五七)

昭和四七年度第十回研究会「計量経済分析の

基本的性格について」……………山 田 弥 五……………三〇(五〇)——三〇(五〇)

昭和四七年度第一一回研究会「ソビエトの

諸研究所を廻って」……………芦 田 文 夫 六……………三七(七七)——三七(七七)

昭和四七年度第一二回研究会「現代巨大企業の

独自の生産単位について」……………坂 本 和 一 六……………三七(七七)——三三(八二)

国家独占資本主義研究会……………

本年度会員業績……………六……………三三(八二)——三三(八二)